

# 京極読書新聞 <第89号>

発行日 平成29年6月1日(木)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 京中生に インタビュー

2017・第1回



平成28年度第27回京極町読書感想文コンクールで入選した中学生に、読んだ本のことや学校生活についてなどをお聞きしました。今の中学生はどんな本を読んでいるのでしょうか？今年もスタートです！

鈴木 来夏さん(1年) 「宮沢賢治「旭川。」より」  
守 藍さん(1年) 「雪渡り」



「宮沢賢治「旭川。」より」 宮沢賢治／原作（BL出版，2015）  
「雪渡り」 宮沢賢治／作（パロル舎，1989 ほか）

——お二人は中学1年生ですが、初めての中学校生活はどうか。

守 勉強が難しくてたいへんですが、楽しいこともいっぱいあります。

鈴木 私も勉強が難しいんですが、教科ごとに先生が変わるので楽しいです。

——これまでの中で楽しかったことは何でしたか。

守 部活動紹介があってバドミントン部に入りました。

鈴木 音楽部に入って楽器を演奏したりコーラスをするのが楽しいです。

——これから楽しみにしている行事はありますか。

守 秋に行われる学年ごとの球技大会です。

鈴木 今週土曜日の体育祭が楽しみです。

——去年の読書感想文コンクールで、入賞したと聞いた時はどう思いましたか

守 これまでも何回か入賞したことがあるんですが、素直にうれしかったです。

鈴木 小学4年生から3年連続して入賞なのでうれしく思いました。

——今回お二人は宮沢賢治の作品や、賢治の詩を元にした絵本を選ばれましたが、鈴木さんはなぜこの『宮沢賢治「旭川」より』を選んだのですか。

鈴木 宮沢賢治が旭川に来たことがあるのを知って、その続きを見たいと思ったからです。

——これはあべ弘士さんの絵本ですが、どの場面が心に残っていますか

鈴木 宮沢賢治が馬車に乗って農事試験場に向かう場面です。旭川への新鮮な気持ちが伝わってきて、心に残りました。

——この中で鈴木さんがぐっと心に引かれた言葉があるそうですが、それは何ですか

鈴木 「とてもさわやかな街が好きになりました」という表現に驚きました。

——旭川の街のすがすがしさがよく伝わってきますが、鈴木さんはほかに行ってみたいところがありますか。

鈴木 稚内など北の方に行ってみたいです。

——この絵本をどんな人たちに読んでもらいたいですか。

鈴木 旭川に行ったことのない人や、宮沢賢治のことをよく知らない人たちにです。

——守さんは「雪渡り」を選びましたが、このお話で心に残った場面はどこですか。

守 子どもの四郎とかん子が、歌って踊るところがいいなと思いました。私も歌うのが好きなので、同じだなと思ったからです。

——この作品の中に、いいなと思った表現があったようですが。

守 一行目の「雪がすっかりこおって大理石よりもかたくなり、空もつめたいなめらかな青い石の板でできているらしいのです。」という文章です。

——厳しい寒さや冬の晴れた日の様子が、よく伝わってきますね。このお話は四郎とかん子の子もたちと、きつねの子たちとの交流が描かれていますが、宮沢賢治は何を伝えたいかと思いませんか。

守 大人になっても人にうそをつかない、人をねたまないことが大切だということです。

——このお話をどんな人たちに読んでもらいたいですか。

守 うそをつかないように気をつけたいと思っているいる人たちに、読んでもらいたいです。

——宮沢賢治のお話はこのほかにもたくさんありますので、ぜひ読んでみてくださいね。

## 宮沢賢治の作品を読んでみる?



### ◆よだかの星

オールカラーの版画絵本。他の鳥たちから「醜い」「名前を変えなければ殺す」などと言われたよだかは、遠い星を目指して飛び立ちます。

◆フランドン農学校の豚  
農学校で飼われていた豚が幸福な生活から一転、死亡承諾書への爪印を求められ…。殺される豚の苦悩を描きます。



### ◆葉子さんの本棚

「ビブリア古書堂の事件手帖」シリーズに登場する実在の名作を収録。宮沢賢治の作品は「春と修羅」という詩集から3編を掲載しています。

## 村上 大我さん(2年) 「ぼくらの七日間戦争」 大西 美月さん(3年) 「ぼくらの七日間戦争」

——お二人がこの「ぼくらの七日間戦争」を取り上げましたが、そのきっかけは何でしたか。

大西 一回読んでおもしろかったので、読書感想文を書くために、もう一度読み直しました。

村上 母親からおもしろいよと薦められて読みました。

——昨年の読書感想文コンクールで、入賞したと聞いた時はどう思いましたか。

村上 入賞するとは思いませんでした。しかも最優秀賞と聞いて驚きました。

大西 村上君が同じ話を書いていたのでびっくりしました。

——この作品を読むのにどのくらい時間がかかりましたか。

大西 おもしろかったので2時間で読みました。

村上 3日間ぐらいで読みました

——子どもたちと大人たちの七日間にわたる戦いが描かれていますが、どの場面が心に残っていますか。

村上 子どもたちが解放区に立てこもり、探しにきた大人たちと戦う最後の場面です。

大西 私も最後の場面です。警察が解放区に突入したのですが、子どもたちはもう誰もいなくなっていて、大人たちが驚いたところです。

——登場人物がたくさん出てきましたが、その中で好きな人物はだれですか

大西 医者の子で、誘拐事件に巻き込まれた柿沼直樹が好きです。

村上 主人公の菊地英治とその親友の相原徹が好きです。二人は大人たちと戦う時に積極的に意見を出したからです。

4ページ目に続きます

「ぼくらの七日間戦争」  
宗田理／著（ポプラ社，2007）



——子どもたちが知恵を出し合い、工夫して大人たちを動かしていくのを読んで、どう思いましたか

村上 子どもたちの行動力と勇氣はすごいと思いました。

大西 子どもたちが勝って、爽快な感じになりました。

——大人の私が読んででもスカットして痛快でしたよ。そのほかに、この作品を読んで考えたこと、思ったことは何かありますか。

大西 私は年上の人には、なかなか意見が言えないのですが、主人公たちのように、間違っていることは間違っていると、言えるようになりたいと思いました。

村上 最後の場面で、いなくなった子どもたちを必死で探す姿を見て、子どもが親に反抗しても、大人は子どものことを心配するんだなと感じました。

——最近読んだ本で、おもしろかったものがありますか。

村上 この「ぼくらシリーズ」がおもしろかったです。

大西 私もまだこのシリーズを読んでいるところです。

——今までの中学校生活で楽しかったこと、これから楽しみにしていることは何ですか。

大西 生徒会活動が楽しかったです。最後の文化祭で、壁新聞の記事を書くのが楽しみです。

村上 楽しかったのは、みんなで協力して準備した文化祭が成功したことです。今年の文化祭も楽しみにしています。

——残りの中学校生活を楽しんでください。本日はありがとうございました。

## 宗田理「ぼくら」シリーズを読んでみる?

「ぼくら」シリーズの第1作目となる「ぼくらの七日間戦争」。初出は1985年で、今から30年以上も前になります。湧学館で所蔵しているのは、2007年にポプラ社から発行された新装版が主ですが、その他にも角川文庫、徳間文庫からしか出ていないシリーズもあるようです。現在は角川つばさ文庫で書き下ろし作品が発売されていて、最新作は「ぼくらのハイジャック事件」。

なかなか手に入らない古い作品に手を伸ばしたいときは、湧学館にリクエストすると全道の図書館から本を借りることができます。シリーズ制覇を目指して、読書を楽しんでください!



京極読書新聞は  
毎月1日発行予定です

### 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.jp>

